

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットPCのタブレットドリルや「まなびポケット」(ドリルパーク、学習探検ナビ)を活用したことで、学習内容を繰り返し復習することができ、基礎的・基本的な知識及び技能の習熟につなげることができた。
- ・【問題把握→自力解決→集団検討】という一定の流れで授業を展開することで、児童の思考の整理につながった。
- ・各単元の導入場面に児童にとって身近な問題を提示したり、関連する既習事項を振り返る学習活動を取り入れたりしたこと、また、算数的活動を多く取り入れたことで、学習意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の一層の習熟を図るため、学習内容を繰り返し復習することに、継続して取り組む必要がある。特に、毎学期初めの東京ベーシック・ドリルの評価問題に取り組んだ後は、その結果を踏まえ、適切な復習問題に取り組むようにする必要がある。
- ・児童が自分の考えを適切に表現することができるようにするため、昨年度に引き続き、授業の中に、児童が言語のほかに関や表、式などを活用して自分の考えを伝え合う場を設定する必要がある。
- ・児童のより深い学びを促すため、【問題把握→自力解決→集団検討】の後に、簡素な形であってもその日の学習を振り返る時間を確保できるようにする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	全体的に目標値を上回っている。	/	/
第5学年	全体的に目標値を若干下回っている。	全体的に目標値と同程度である。 (第4学年時)	/
第6学年	全体的に目標値を上回っている。	全体的に目標値を上回っている。 (第5学年時)	全体的に目標値を大幅に上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は昨年度と比較して約8ポイント下回っている。6年生は目標値を上回っている。	5・6年生とも、目標値を上回っている。	5・6年生とも、昨年度より10ポイント以上下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 半具体物の操作や量を比べたり測ったりする活動に繰り返し取り組む。 タブレットドリル等を活用して、デジタルベースでも学習内容の復習に繰り返し取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数ブロックを並べたり、式や簡単な図をノートに書いたりして、自分の考えを表現する。さらに、友達のかげにふれ、自分の考えと比べる時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のめあてを意識して、見通しをもって学習に取り組むことができるようにするとともに、ごく簡単な学習の振り返り（ハンドサイン、選択肢も可）を各単元の終末等に位置付ける。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> タブレットドリルや「まなびポケット」内のアプリ等を活用して、学習内容の復習に繰り返し取り組む。 前学年までの既習事項を確実に身に付けるために、上記アプリを活用した補充問題（学期初めの東京ベーシック・ドリルの評価問題の結果を踏まえる）に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 式、図、文や文章をノートに書いて、自分の考えを表現する。さらに、友達のかげにふれ、自分の考えと比較したり組み合わせたりしてよりよい問題解決方法を考える時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の必要感をもたせるため、身近で具体的な出来事を基にした学習課題を与える。 児童自身が学習の意義を味わうことができるようにするため、文字言語による学習の振り返りを各単元の終末等に位置付ける。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> タブレットドリルや「まなびポケット」内のアプリ等を活用して、学習内容の復習に繰り返し取り組む。 前学年までの既習事項を確実に身に付けるために、上記アプリを活用した補充問題（学期初めの東京ベーシック・ドリルの評価問題の結果を踏まえる）に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして、学習課題解決の見通しをもたせる。 式、図、文や文章をノートに書いて、自分の考えを表現する。さらに、友達のかげにふれ、自分の考えと比較したり組み合わせたりしてよりよい問題解決方法を考える時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の知的好奇心を刺激するとともに、学習の必要感をもたせるため、身近な出来事やニュース等を基にした学習課題を与える。 児童自身が学習の意義を味わうことができるようにするため、文字言語による学習の振り返りを単元の過半時数程度の授業の中に位置付ける。